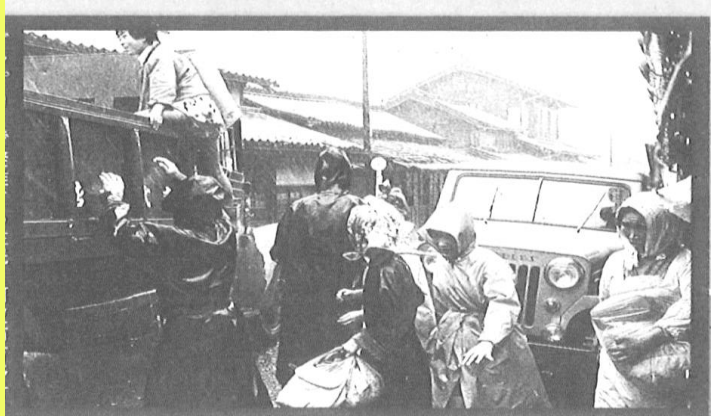


「なかまがいるこの場所が好き」

いつも やさしさと愛情 感謝の心



ダンプカーで避難する住民
(阿波市吉野町)

1961年(昭和36年)9月16日、徳島は未曾有の大災害に見舞われた。台風18号、後に「第2室戸台風」と名付けられた。午前10時からわずか2時間の間に最大風速が60メートルを超える暴風と、津波のような高潮が民家を次々と破壊した。また、9月15日～17日の3日間での降水量が175ミリだった。

第2室戸台風の脅威



暑さがいっそう身にこたえる毎日ですが、いかがお過ごしでしょうか。
毎年この時期は、地震、台風、集中豪雨による河川の氾濫、洪水等、自然災害の多発するシーズンです。
皆さん備えはできていますか。
避難場所の確認、熱中症対策、コロナ予防等さまざまな対策をしなければなりません。いざという時のため、今一度確認をしておきましょう。

皆さんお元気ですか

戦国時代、阿波の領主が
天下を獲っていた時期があった?

一六世紀半ばの戦国時代、阿波の領主が天下を動かしていた時期があったことをご存知だろうか?

その領主の名は**三好長慶(みよしながよし)**。織田信長が京都に進出する少し前、下克上に成り上がり、**実力でもって京都を支配した武将**である。

どうやって阿波の三好氏が天下を牛耳ったのか。その経緯を見てみよう。

三好氏は南北朝時代に小笠原氏から分かれ、吉野川の上流三好郡に住み、三好氏を名乗った一族である。

室町時代から戦国時代の過渡期にかけて、阿波国守護細川氏の被官として、三好、美馬、麻殖三郡の守護代として阿波の支配を任されていた。

三好氏の主君・細川氏は京都の室町幕府において管領を務める細川氏の一族である。明應二年(一四九三)の明應の政変により、管領の細川政元が將軍足利義材(よしき)を追いつて落として幕府の実権を奪い取ったが、間もなくその管領細川氏に内部分裂が勃発する。

細川政元が没するや、三人の養子澄元、澄元、高国が跡目を争い始めた。このとき、阿波細川から政元の養子となった澄元に付き従っていたのが、長慶の曾祖父・長である。そのため三好氏は、細川家の混乱に巻き込まれていった。

澄元と之長は澄元を破ったものの、高国に敗れて永正一〇年(一五二〇)に敗死した。しかし反高国のろしがあがると、大永七年(一五二七)に之長の孫・元長が細川澄元の子・晴元を擁して堺に上陸。高国政権を崩壊させて晴元を管領とし、元長は山城下五郡の守護代となった。

こうして元長の尽力により細川晴元政権が誕生し、元長は晴元の片腕となって活躍した。

ところが政権を握った晴元は、実力者の元長の力を恐れるようになり、それまで敵対していた一向一揆と手を結び、享禄五年(一五三二)、元長を攻めて死に至らしたためである。

その元長の子が長慶である。父の死により長慶は阿波に逃れたが、二年後上洛。晴元に思うところはあったが、和してその被官となった。

晴元政権の下、次第に力をつけた長慶は、やがて晴元との対立が表面化する。天分一七年(一五四八)に反晴元の兵をあげる。翌年、攻勢に出た長慶は、晴元はおろか將軍義輝をも京から追い出すことに成功し、晴元の政権を崩壊させたのである。

その後、反撃に出た義輝と晴元軍を再度破り、義輝の東山靈山城を陥落させた長慶は、摂津の芥川城に入った。そして山城、摂津、丹波、和泉、淡路、阿波、讃岐、伊予、大和の九箇国という畿内、四国をまたに

將軍も管領も追放し、京の支配を確立

その元長の子が長慶である。父の死により長慶は阿波に逃れたが、二年後上洛。晴元に思うところはあったが、和してその被官となった。

晴元政権の下、次第に力をつけた長慶は、やがて晴元との対立が表面化する。天分一七年(一五四八)に反晴元の兵をあげる。翌年、攻勢に出た長慶は、晴元はおろか將軍義輝をも京から追い出すことに成功し、晴元の政権を崩壊させたのである。

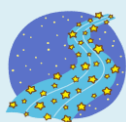
その後、反撃に出た義輝と晴元軍を再度破り、義輝の東山靈山城を陥落させた長慶は、摂津の芥川城に入った。そして山城、摂津、丹波、和泉、淡路、阿波、讃岐、伊予、大和の九箇国という畿内、四国をまたに

將軍も管領も追放し、京の支配を確立

その元長の子が長慶である。父の死により長慶は阿波に逃れたが、二年後上洛。晴元に思うところはあったが、和してその被官となった。

晴元政権の下、次第に力をつけた長慶は、やがて晴元との対立が表面化する。天分一七年(一五四八)に反晴元の兵をあげる。翌年、攻勢に出た長慶は、晴元はおろか將軍義輝をも京から追い出すことに成功し、晴元の政権を崩壊させたのである。

七夕飾り



今年も当センターのロビーに七夕の笹を設置しました。「わたしが年をとるまで、家族7人がいっしょにいますように」といった、子どもの家族を思う純粋な気持ちが込められた、願い事も書いてありました。みんなの願い事が叶いますように!



かけた支配権を獲得したのである。
天文二年(一五五三)頃には、將軍、管領が不在のなか、三好長慶による**軍事独裁政権**がうちたてられていたとされ、以後**五年間**、幕府奉書の代わりに**長慶の名**による**裁許状**が発給され、これが効力を発揮している。摂津の国人衆や堺、兵庫の有力者も三好政権の傘下に組み入れられていたとされる。永禄元年(一五五八)に將軍義輝を京都に迎え入れたが、その後も長慶は幕臣の最高位の**相伴衆**として、**実質的に畿内を牛耳った**。二年後には晴元も隠居し、細川本家は表舞台から完全に姿を消した。

阿波出身の守護代の子が、ついに権勢をほしきままにしたのである。長慶こそ、畿内において**下克上を成し遂げた先駆**けといえるだろう。

しかし下克上は繰り返される。長慶の絶頂期も長くは続かず、その晩年は、家臣も**松永久秀**に**実権を奪われ次第に弱体化**していった。

(歴史書より)